

# 山名氏の系譜

室町から現代まで

但馬山名

山名時氏

因幡山名

山名氏冬

山名氏家

山名熙貴

山名勝豊

山名豊時

山名豊頼

山名誠通

⑫山名持豊  
宗全  
南禅寺真乗院

応仁の乱  
対立

細川勝元

⑬山名教豊

勝豊

因幡山名に養子

山名豊重

追討

⑭山名政豊

山名豊頼

⑮山名到豊

⑯山名誠豊

支援

因幡山名と対立・追討

生野銀山発見

⑰山名佑豊

豊定

因幡山名に派遣

山名豊定

豊臣軍の但馬  
攻めで討死

⑱山名堯熙

元家臣

山名豊数

1.山名豊国

豊臣に仕え  
播磨に領地を得る

秀頼家臣  
大阪夏の陣で討死

山名堯政

清水正親  
徳川家臣  
幕臣

養子実現  
に助力

最後の因幡守護  
村岡山名の初代  
妙心寺・東林院  
村岡・一二峠

恒豊

清水恒豊

鳥取城で豊臣軍に降伏  
足利義昭・千利休等と共に  
秀吉の御伽衆

関ヶ原では東軍  
徳川の御伽衆・交代寄合衆  
旗本(6700石)大名待遇

元禄13年・1700年  
に山名姓回復

山名時信

現代に至る

村岡山名

戦国時代

江戸時代

2.山名豊政  
青山・山名墓所

3.山名矩豊  
のりおよび  
壺溪御廟

4.山名隆豊  
とよなり  
壺溪御廟

5.山名豊就  
とよなり  
壺溪御廟

6.山名豊暄  
とよのぶ  
壺溪御廟

葛飾に千石を賜るが、  
家督継承の際、弟に譲る

幕府体制が確立した  
寛永年間に藩都を  
福岡から村岡に移し、  
城下造営

福島正長(福島正則孫)  
の次男、矩豊の養子。

2代豊政の孫、隆豊  
の養子となる。  
大番頭・寺社奉行を  
歴任。  
小代一揆の收拾に当  
たる。

江戸藩邸を本所に賜  
う。  
広さ五千坪。在任22  
年。

山名豊義

葛飾山名 ----- 現代に至る

7.山名義徳  
壺溪御廟

8.山名義方  
壺溪御廟

9.山名義蕃  
よしあきら  
壺溪御廟

10.山名義問  
壺溪御廟

11.山名義濟  
よしなり  
桜山御廟

柳川藩・立花貞俣の八男、  
婿養子として迎える。  
在任50年。  
和歌絵画が巧み。

陣屋を殿町から  
御殿山に移し、  
家格相応の備えを  
整えた。

鯖江藩・間部詮茂の  
四男。婿養子として  
迎える。

藩学・明倫館を開き  
フランス式の法学を  
始め子弟教育に当  
たる。畜産を奨励し  
新田開発も進め、  
村岡藩立藩に貢献。

慶応4年(1868)維新立藩  
により所領1万1,000石。  
明治2年(1869)に藩主に  
取り立てられて、村岡藩  
が成立。

12.山名義路  
よしみち  
桜山御廟

13.山名義鶴  
よしつる  
青山・山名墓所

14.山名晴彦  
現代に至る

明治4年12歳で家督相続。  
同年、廃藩置県により村岡県知事。  
数ヶ月後、豊岡県に吸収され、上京。  
陸軍入隊。陸軍少佐。  
明治17年華族令により男爵。  
貴族院議員歴任。

学生の頃から社会運動活動に従事。  
大阪労働学校の創立など労働者教  
育につくし、日本労農党結成に協力。  
その後、農家二男  
三男救済の為に、満州移民教会設立。  
戦後は社会党右派、民社党結党に関わる。

越前丸岡藩・有馬家二男、  
婿養子として迎える。  
神戸大学在学中に飛行士免許取得。  
海軍省入省。戦後は海上自衛隊。  
海上幕僚監部海将補。  
昭和61年山名一族会結成、総裁。